

# 令和7年度 学校自己評価

質問項目	課題・改善策
1 個別の指導計画をチームで検討し、保護者とも共通理解を図りながら作成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の日々の様子や連絡帳、個人懇談などを通して、担任で情報交換しながら微調整することで保護者との共通理解も図れた。</li> <li>・家庭訪問を個人懇談会に変更することで、時間をかけて保護者と話し合うことができるようになったのではないかと感じる。</li> <li>・チーム検討期間が設けてあったので、クラスごとにチーム検討をし、連絡帳や懇談等で保護者と共通理解しながら作成できた。</li> </ul>
2 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」にそって、的確で効果的な指導と支援を進めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちの実態に合うように努めている。</li> <li>・支援計画については、より実効性がある様式に来年度から変更し、そこで新たな課題が出てくるようであれば再度検討する。指導計画については、より効果的に運用できるようにチーム検討日を設けた。来年度は時間設定して行う方向で検討する。引継ぎ後の支援のずれについては、それを少しでも少なくするのが複数担任制の意義だと感じる。放課後などを利用して、担任同士で意見を交わしてほしい。</li> <li>・チーム検討の日程が決められており、サイボウズ等での周知もあったので、意識して確認しながら進めることができた。来年度も検討期間を意識できるように同様に周知があればよい。</li> </ul>
3 個々の課題を明確にして、その実態や課題に応じた指導内容、方法、形態を工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部や個人の実態によるが、連絡帳への担任への記入については、指導内容の項目程度にして簡素化する。年度初めの懇談や通信等で、保護者には十分な様子等は記入できないことは告知しておき、日々の指導にあたるようにする。</li> <li>・形態、時間、内容、場所など、日々変わる生徒たちの心の動きや行動に合わせた指導を行っている。課題は、スーパースローステップで取り組み、学期にあるいは1年に1つクリアできればいいと考えている。</li> <li>・指導計画の内容が幼児生の実態に合っているか、クラスや学年で読み合わせがしっかりと行われるように各学部の自立活動部員から呼びかけを行った。</li> <li>・児童の実態、様子に合わせながら共通理解して進めることができたが、児童の課題を見つけることや実態把握するためには、どのような点に注目していけばいいのかなどの研修があれば、より課題を早く明確にすることができると思う。</li> <li>・研究対象児童生徒の授業づくりや改善の中で、個々の実態や課題に応じた指導について工夫できるように努めた。</li> <li>・2学期の研究授業後のグループワークの中で、授業における指導内容や指導方法、形態等の工夫について意見交換や交流ができた。</li> <li>・生徒個々の実態、課題に応じた指導について共有しながら進めようとしているが、個別の指導支援が十分にできていない面がある。支援についての学部内での工夫、徹底が必要である。</li> </ul>
4 自立活動の指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始まってしまうと、以降、グループ分けや内容について十分な検討ができなかった。</li> <li>・サイボウズを活用し、それぞれの学習会でのフィードバックをまとめて全体で共有した。</li> <li>・それぞれの学部で良い取り組みができているので、教材や教具、活動内容などについて紹介する機会を設けるとよい。</li> <li>・「自立活動とは」ということについてさらに理解を深めていく必要がある。</li> <li>・自立活動チェックシートがうまく活用できなかった。各学部に自立活動の担当がいるので、自立活動の研修や情報提供、資料提示などがあればよい。</li> <li>・自立活動抽出の授業の中で、教師も学んだことを活かして指導できた。グループによる自立活動は生徒個々の実態に応じて指導できたが、進路を見据えた自立活動の指導支援を充実させる必要がある。</li> <li>・一年間を通じて、校内研修や授業研究の中で自立活動の充実を図っていけるように努めた。</li> </ul>
5 ねらいや目的を明確にした学校行事・学部行事・校外学習を行い、個々の成長につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の実態に応じたねらいのもとに、学習と支援ができた。</li> <li>・ねらいや目的を明確にしながら行うことができた。しかし、学校行事や学部行事が多く、準備や事前学習で他の授業に影響が出たりと、個々の成長に本当につながっていたのかは疑問が残る。本年度は、交流を二校同時に開催するなど簡易化しつつあるが、まだ課題があると思われる。学校・学部行事の在り方については常に「本当に必要か」を視点に見直す意識が必要である。</li> <li>・修学旅行ではねらいや目的を明確にし、事前学習や振り返りの活動ができた。ユニピアの校外学習では他学部との交流もできてよかった。</li> </ul>
6 委員会活動を中心に自治活動を活発にし、児童生徒会活動の充実に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善の必要性を感じる。活動担当教師全員で委員会内の業務を分担する形は継続し、活動内容をマンネリ化しないようにしたい。児童生徒の実態に応じて支援方法を工夫し、無理なくできる生徒の活躍の場を加え、取り組み等を集会で発表していけたらと思う。</li> </ul>
7 地域の教材や人材を積極的に活用して、ふるさと教育をはじめとする体験的学習を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽関係者、観光協会、福祉関係者、ボランティアの方々などに来ていただいて学習できた。</li> <li>・モノづくり体験、交流クッキング、もちつき、交流カフェ、食育授業、楽器鑑賞・体験、全盲当事者との交流など、充実した体験的学習を行うことができた。卒業後の社会生活を見据えて、今後も地域との繋がりを大切に学習を推進していく。</li> <li>・JAの方に来ていただき、黒枝豆の種まきを指導していただいた。2月には紙飛行機作りに講師の方にきていただいて教えていただく予定である。</li> </ul>
8 基本的な生活習慣や生活リズムの確立を図り、自立への基礎的な力を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚支援を用いながら、学校教育でできる範囲のことはできた、また、必要や実態に応じて家庭と情報交換しながら、同一歩調でできることも相談しながら取り組んだ。</li> <li>・日常生活の指導が個別の指導計画に加わったことから、懇談時に保護者と目標や課題、成果について共通理解し、情報交換する機会ができた。</li> <li>・日々の日常生活の指導を通して積み重ねているところである。</li> </ul>

9	作業学習、職場・施設実習、自然体験等を中心に、体験的な学習の充実に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習や自然体験活動をはじめ、道徳と生活単元学習においても体験的な学習ができた。</li> <li>・自然体験学習や生単の畑の夏野菜や黒枝豆サツマイモ等の苗植えや収穫、自動販売機の飲料購入、買い物学習、レストラン学習などの体験活動ができた。</li> <li>・特に作業学習、現場・施設実習を中心に体験的活動は十分に実施できた。生徒の進路に対する意識を高めながら取り組む必要がある。</li> </ul>
10	外部関係機関との連携を密にして、一貫性のある進路指導ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政機関や就業・生活支援センターの連携のもと高等部卒業後の進路先確保ができています。</li> <li>・進路担当と常に情報共有し、外部機関との連携を取りながら進路指導に取り組んでいる。</li> </ul>
11	学校事故や災害時等の緊急事態発生時の対応・体制づくりが図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時連絡カードと個別の避難支援カードの作成、作成後に引き渡し訓練の実施を継続して行っている。福祉避難所に関しては、マニュアル等は作成できているが、実際の運用という点では再考が必要であり、周知に至っていない。</li> </ul>
12	定期的な安全点検の実施、施設・設備の安全管理が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、複数の目で安全転換を実施している。不備のあった箇所は、担当者で直せる軽微なものは担当で、そうでないものは事務所に報告し改善されるように図っている。</li> </ul>
13	シミュレーション研修、救急法の研修等、関係諸機関と連携して、教職員の実践的な研修や訓練ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部や学部間で救急体制シミュレーション研修を行い、実際の動きやアクションカードの使い方を確認するなど、実践的な研修ができています。</li> <li>不審者対応や防災訓練を、隔年で継続して行っている。</li> </ul>
14	保護者や関係機関との連携を図り、適切な医療的ケアや保健指導が推進できている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週5日登校となり一年が経過。9月に入院することはあったが、その他は概ね順調に登校できている。</li> <li>・卒業後の進路を見据えて実習等の取組をしてきたが、現段階では決定に至っていない。特に医ケア生の進路については、早い段階から保護者の思いを十分に聞きながら、よりよい実現に向けて検討を重ねていく必要がある。</li> <li>・校内での多職種連携および保護者や関係機関との連携を密にし、医ケア児が安全に在校し活動できるように、今後も校内推進委員会を軸に組織的に推進していくことを目指したい。</li> </ul>
15	教職員もPTA活動に参画し、充実を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な範囲で参加できた。</li> <li>・PTA活動が減少しているため、教職員もPTA会員も積極的に交流できる場を大切にしたい。</li> </ul>
16	学校運営協議会を通して、地域との連携強化に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々改善されていると言える。多くの職員にとって「連携状況が見える」「自分も関わった」活動があったことがその根拠として考えられる。</li> <li>・今年度は、校名変更について学校運営協議会を中心に深く協議検討し、校名変更を実現させることができた。</li> </ul>
17	特性を踏まえたきめ細かな生徒指導が、全職員共通理解のもと推進できている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「評価の項目」の文言を見直してはと考える(例: 特性をふまえた生徒指導が、全教職員共通理解のもと組織的に推進できている)。</li> </ul>
18	特別支援教育研究者や福祉関係者との交流・研修を行うことで、高い専門性を追求している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、この欄に記入した内容は以下の通り。項目の最後に『高い専門性を追求している』というフレーズがあるが、専門性を高めていくためには、あてがわれた(=学校等が準備した)機会だけではなく、各自が自分の興味関心に基づいて学校の動きとは違う研修を体験することも大切だと考える。そのような研修会の告知(例: 兵庫リハビリテーション心理研究会等)も積極的にしていること認識している。</li> <li>・職員全体としての意識の高まりが推測される。来年度もこの流れで交流や研修ができるといいだろう。</li> </ul>
19	教職員の資質や専門性の向上を図るため、計画的な校内研修を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動に関する研修について整えた。今年度行った程度の研修は、今後も必要ではないかと考える。水曜日の放課後の時間の使い方をパターン化させるのは、研修を行うシステムとして良いのではないかと。</li> <li>・今年度計画した校内研修は実施できている。全体研修の回数は増やさず、各部・委員会と調整しながら計画を立てて実施していきたい</li> </ul>
20	継続的にキャリア教育の研修を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア教育」という名目での研修は行っていないが、自立活動を充実させることがキャリア教育に繋がっている。キャリア教育と自立活動を別物として捉えるのではなく、自立活動と繋がった上での研修を考えていく必要がある。</li> <li>・本校でのキャリア教育をどんなふうに捉えているかが大切な視点であり、実施している研修の大部分はキャリア教育と深く関わっていると考えられる</li> </ul>
21	研究テーマに沿って、授業力向上に向けた授業研究ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の教育活動において、常に意識して取り組むことは難しい。大きく逸脱していなければ、それで十分ではないかと考える。</li> <li>・研究部と協力して授業力の向上に向けた研修や研究を行えるよう、橋詰先生・瀬戸山先生を講師として招聘した。特別支援学校の教師として専門性を高めることは不可欠なので、いろいろな先生のお話を聴くことは大切であると考え。</li> <li>・研究として1年間取り組むべきことを見通して計画的に進めることができるようにしたい。児童・生徒の実態を同じ講師先生に年間を通して見ていただけたことは大変よかったが、研究テーマに沿った授業力向上に向けた授業研究となると、発達段階や実態等によってはなかなか難しい面もある。</li> <li>・授業力向上の取組を学部や担任同士などでチームといって進めているが、研究テーマや学部の研究目標が教職員が意識できる工夫、取組も必要である。</li> <li>・各学部で授業力を向上させることができるように、講師先生との教育相談、授業研究を継続して全体研修の場を設定できた。</li> <li>・特別支援教フォーラム(本校の研究実践発表会)のあり方と内容を、学校教育改革委員会が中心となって検討し、実施して行く方向で考える必要がある。</li> </ul>

22	教育活動全体の中で、相手を思いやる心を育て、生命の尊厳や人権尊重の精神を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見えた行動、聞こえた発言を機会があることとらえ、個々の実態に応じて支援できた。また、必要に応じて保護者とも情報交換を行った。</li> <li>・全員ではないが、カナヘビやウサギをかわいがったり、友達に優しく接したり、優しい言葉をかけたりすることができていた。</li> <li>・進路学習、福祉講演等の機会を通じて、相手を思いやり大切に育てるように努めた。普段の生活や授業の中で、友だちに対するよい行動や発言をほめ、よくない行動や発言を見逃さず指導することが必要である。</li> </ul>
23	発達段階に応じて、情報モラル教育に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報に関する目標を、各学部ごとに設定する。目標は、今年度中に作成したい。1・2・3学期と学期ごとの目標を設定する。</li> <li>・講師を招集して、情報モラルに関する授業をしていただく。</li> </ul>
24	給食指導を中心に、家庭と連携した食育の充実が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活相談では、希望者を優先して幼児生への給食指導の日程を組むことができた。事前に、保護者に相談内容を具体的に記入していただき、当日の相談がスムーズにでき、家庭と連携して対応の方向性を考えることができた。</li> <li>・給食講演会・試食会では、給食センターの様子を映像で見たり、実際の配膳や試食をしたりすることで、保護者に栄養バランスの理解を深めてもらうことができた。保護者が参加しやすい日程であり、情報交換の場にもなった。今年度は、リクエストの揚げパンを試食していただけて良かった。</li> </ul>
25	居住地、隣接校交流及び共同学習は、連携を深め、ねらいや活動内容を明確にした交流、共同学習となっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地交流の幼児生の様子が知りたい職員は、各担任に直接聞いてもらう。学年末の居住地交流のまとめを各自で見ってもらう。</li> </ul>
26	発達段階に応じて、安全教育・保健教育を実施し、安全で健康な生活ができる基礎的な能力を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医および歯科衛生士と連携し、小学部5年～中学部3年、高等部3年に対して歯科指導を行い、日々の歯科指導につなぐことができた。継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・交通安全については、篠山警察署の協力のもとに隔年で取り組んでいる。日々の安全教育は、日常生活の指導や教科指導を通じて取り組まれている。その中には、環境の把握という観点から、身の回りの整理整頓の指導やバス乗降の見守りなどのルーティン化されている指導や取り組みもある。</li> </ul>
27	学校教育目標・指導の重点を意識し、その具現化に向けて取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今やっていること(教育活動)が、教育目標や指導の重点の「どの部分」に関係しているのかを、担当者が意図的にアナウンスすることが求められる。←これは昨年度末にも確認したが、再度、必要な取り組みだと考える。</li> </ul>
28	各種委員会・各部会の組織を強化し、学校運営の活性化に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りから出てきた意見を可能な限り取り入れて、その改善に向けて検討を進めてきた。来年度は、クラリネットの運用が始まる。スムーズに移行できるように努めていく。</li> <li>・どの分掌においても言えることであるが、先を見据えた人員の配置が、組織を強化していくことに繋がると考える。</li> <li>・特別支援学校において「自立活動」と「研究」はとても大切であり、自立活動部と研究部を分けることが望ましいと考えるが、学校の体制的に難しいのであれば統合する必要も出てくる。もし統合されたとしても「自立活動」と「研究」について深めていけるように考えていきたい。</li> <li>・今年度初めて、「研究部」として単独で活動した。前年度からの引継ぎ事項を実施していくことが主になってしまった面がある。仕事内容、人数が適切であるかは、校内研修や研究を学校全体としてどう捉えて取り組んでいかに関わる。特別支援教育の充実と活性化を目指して、研究組織内容の検討の継続が必要である。</li> </ul>
29	学校評価をもとに、教育活動の成果と課題を検証し、改善が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より実効性があるように、より生徒たちの成長につながるように、正すべき点は正して取り組めた。</li> <li>・新年度に、今年度の学校評価を生かす形で、重点的な取組や活動等を再度確認してスタートできるとよい。</li> <li>・学校評価をもとに課題を確認し、改善できるところは改善しようと意識できた。</li> </ul>
30	定期的な学校だより・学部通信等の発行、HPの内容更新など、保護者や地域への情報発信ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R本年度も十分に評価される内容だったと言える。来年度もこの状況を継続することが大切である。</li> </ul>
31	市内の学校園に対して、専門的な支援や助言を行うなど、特別支援教育のセンター的役割を果たしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度も十分に達成できているとみなしてよいと考える。</li> <li>・教育相談「学びサポートルーム」だけではなく、自立活動担当や進路指導担当への相談依頼もある。センター的役割については、本校が長年、本校独自の教育相談体制として伝統的に行ってきた経緯がある。以前は、現在の教育研究所のような市立の相談機関がない状況で、ささよう教育相談(=学びサポートルーム)が一手に担ってきた。近年、市の機関に市費相談員が次のように配置されてきた。週1日配置(1人)→週2日(2人)→週3.5日(2人)。しかしながら、それによって、「学びサポートルーム」への依頼が減ったかという点、その逆であり、年々増加の一途をたどっている。検査依頼だけではなく、検査を含まないコンサルテーション、発達支援・生徒指導・学級指導ジャンルのケース会議(子ども個人、集団)も増加している。</li> </ul>
32	ケース会議、研修会、各種行事等を活用して、外部関係機関との情報共有を図り、連携強化に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関との連携強化については、この2年間で一定の方法・流れ・習慣ができあがってきたのではないかと考える。今後もこの流れを継続していく。また、「〇学部の〇〇さんについてのケース会議を行います。」→「その結果、次のような内容(概略)になりました。」というアナウンスがあると情報共有ができると考える。</li> </ul>
33	学校予算の適正な計画・執行、備品や施設の管理及び充実・改善に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね適切な執行管理を行うことができた。教材費の端数処理の方法や公費負担となる対象経費の整理を行った。</li> <li>・来年度も引き続き、各担当と連携を取りながら適切な予算執行及び施設設備の管理に努めていきたい。</li> </ul>
34	勤務時間を意識して取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月水曜日の時程や下校時刻が変わったことにより、職員の「働き方」が徐々に変化してきているのではないだろうか。</li> </ul>

学校ルールシートを意識して、教育活動や業務に取り組めている。

・毎朝、担当者が読むだけというのが従来のやり方だが、ときには、その項目についての短いコメントがあってもいいかと思う。また、司会以外の職員がコメントを言ってもいいのではないかと思う。ただ、貴重な朝の時間なので、長話にならないように気をつけることは大前提である。